

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 ベルビアン水性プライマーBWP-200
 整理番号 RE-74B02
 会社名 タキロンシーアイ株式会社
 住所 [本社]大阪市北区梅田3丁目1番3号
 担当部門 滋賀工場 建装資材技術グループ
 電話番号 0748-77-3170
 FAX番号 0748-77-2424
 緊急連絡先 東京本社/品川オフィス 床・建装事業部
 電話番号 03-6711-3731
 推奨用途及び使用上の制限：接着剤用途

作成 2019年 1月 31日
 改訂 年 月 日

2. 危険有害性の要約

GHS分類結果：

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外

（経皮） : 区分外

（吸入－気体） : 分類対象外

（吸入－蒸気） : 区分外

（吸入－粉じん及びミスト） : 区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 分類できない

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 分類できない

特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 分類できない

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) : 分類できない

水生環境有害性(長期間) : 分類できない

オゾン層への有害性 : 分類できない

GHS表示：

ピクトグラム なし

注意喚起語 : なし

危険有害性情報 : なし

安全データシート

注意書き：

- 安全対策・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない事。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用する事。（換気が不十分な場合）呼吸用保護具を着用する事。
 - ・粉じん／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避ける事。
 - ・眼、皮膚、衣類に付けない事。
 - ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用する事。
 - ・容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさない事。
 - ・取扱い後は、手をよく洗う事。口をすすぐ事。
 - ・環境への放出を避ける事。
- 応急措置・火災の場合：消火する為に、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用する事。
- ・物的被害を防止するためにも流出したものを吸収する事。漏出物を回収する事。
 - ・汚染された衣類を直ちに脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする事。
 - ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗う事。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断を受ける事。
 - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う事。直ちに医師の診断を受ける事。
- 保管・容器を密閉しておく事。日光から遮断する事。換気の良い場所で保管する事。（5～35℃）
- ・子供の手の届かないところに置く事。
- 廃棄・容器は、中身をすべて使い切ってから廃棄する事。
- ・内容物／容器を、許可を受けた専門業者に委託し廃棄する事。

*接着用途以外には絶対に使用しない事。

国／地域情報 情報なし

3. 組成及び成分情報

物質の特定

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学名又は一般名 : 合成樹脂系接着剤
 成分及び含有量 :

成分名	CAS No.	含有量%	P R T R法		労安法
			含有量%	分類	
アクリルスチレン樹脂	—	約43	—	—	—
水	7732-18-5	50-60	—	—	—
I P A	67-63-0	1未満	—	—	該当

※ 水の含有量は、上記の範囲で変動します。

※ I P A : イソプロピルアルコール

4. 応急措置

- 目に入った場合 : 流水にて最低15分間洗眼した後、異常のある場合は直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : すぐに拭き取り、石鹼水及び水で洗い流す。炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所へ移動して寝かせる。頭痛等の異常がある場合、速やかに医師の診断を受ける。

安全データシート

飲み込んだ場合 : 多量の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。
他人が無理に吐かせてはいけない。

予想される急性症状及び遅発性症状 : 頭痛、吐き気

最も重要な兆候及び症状 : 知見なし

応急措置をする者の保護 : 知見なし

医師に対する特別事項 : 知見なし

5. 火災時の措置

消火方法 : 水溶液なので不燃性だが、万一火災が発生した場合は、付近の着火源を断ち、保護具を着用して風上から消火する。

消火剤 : 小火災－粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂、噴霧水
大火災－噴霧水、一般の泡消火剤

使ってはならない消火剤 : 特になし

特有の危険性 : 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法 : 付近の着火源を断つ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 :

作業者は適切な保護具 (8. 暴露防止及び保護措置の項を参照) を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項 :

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を避ける。

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

回収、中和 :

少量の場合、おが屑、土砂、パーライト等を混ぜモルタル状として凝固回収する。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、バキューム等で汲み上げる。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑える事ができない恐れがある。

封じ込め及び浄化方法と機材 :

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策 :

全ての着火源を速やかに取り除く (近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

関係箇所に通報し応援を求める。

安全データシート

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 スプレーミストの発生する作業の場合は、フィルター付きの保護マスクを着用する。

局所排気・全体換気：

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
 液の漏洩を極力防止する。

安全取扱い注意事項：

眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

接触回避：

「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策：

容器を密閉して、直射日光及び雨水を避け、冷暗所で貯蔵すること。

保管条件：

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
 酸化剤から離して保管する。
 容器は直射日光や火気を避けること。
 保管場所は、耐火構造、床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。
 施錠して貯蔵すること。

混触危険物質：

「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料：

耐久性のある容器を使用する。
 国連容器等級 非該当

8. ばく露防止及び保護措置

化学名	管理濃度	許容濃度			
		日本産業衛生学会		ACGIH	
		ppm	mg/m ³	TWA	STEL
IPA	200ppm	最大400	最大980	200ppm	400ppm

日本産業衛生学会 2010年 () : 暫定値 ACGIH 2010年 () : 変更提案値

設備対策：

局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
 「関係者以外立ち入り禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。
 安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を設置する。

安全データシート

- 保護具： 呼吸器の保護具 - 保護マスクを着用すること。
 手の保護具 - 保護手袋（耐油性ゴム手袋）
 眼の保護具 - 保護眼鏡（側板付き普通眼鏡またはゴーグル型）
 皮膚及び身体の保護具 - 保護長靴、耐油性（不浸透性・静電防止対策用）
 前掛け、防護服（静電防止対策用）等
- 衛生対策： 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 緑色液体
臭い	: 製品特有の臭い
臭いの閾値	: 知見なし
pH	: 6 - 8
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 100℃
引火点	: データなし
蒸発速度	: データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度(空気 = 1)	: データなし
比重(相対密度)	: 1.0 - 1.1
溶解度	: 水に無限大に希釈可能
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
 危険有害反応可能性 : 知見なし。
 避けるべき条件 : 低温 5℃以下、高温 40℃以上
 混触危険物質 : 禁水物質
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

NITEのデータより、

	I P A
急性毒性（経口）	ラット LD50=4384 mg/kg 区分外
急性毒性（経皮）	ウサギ LD50=12,870 mg/kg 区分外
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	ラット LC50（4時間）=68.5 mg/L（27,908 ppm）区分外
急性毒性（吸入：粉じん及びミスト）	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギ：刺激性なし～軽度

安全データシート

	の刺激性 区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギ：軽度か～重度の刺激性 区分2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	IARC：グループ3、ACGIH：A4 分類できない
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1（中枢神経系、全身毒性）、区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1（血液系）、区分2（呼吸器、肝臓、脾臓）
吸引性呼吸器有害性	分類できない

1.2. 環境影響情報

N I T Eのデータより、

	I P A
水生環境有害性(急性)	甲殻類（オオミジンコ） 48時間 EC50>1000 mg/L 区分外
水生環境有害性(長期間)	急性毒性－区分外 急速分解性－あり（BODによる分解度：86% 区分外
オゾン層への有害性	分類できない

1.3. 廃棄上の注意

- ・産業廃棄物（汚泥）として許可を受けた専門業者に委託する。
- ・洗浄水等の排水は凝集沈殿、活性汚泥等の処理により、清浄にしてから排出する。
- ・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後処分する。

1.4. 輸送上の注意

国内規則

- 陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。
- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

国際規則

- 国連番号 : 該当せず
- 国際輸送品名 : 該当せず
- クラス : 該当せず
- 容器等級 : 該当せず
- 海洋汚染物質 : 該当せず
- 緊急時応急措置指針番号（容器イエローカード指針番号） :

特別の安全対策：「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載に従う。

容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、破損の無い様に、積み込み、荷崩れ防止を行う。

安全データシート

15. 主な適用法令

労働安全衛生法	表示対象物質	－該当せず
	通知対象物質	－I P A
消防法		－該当せず
毒物及び劇物取締法		－該当せず
悪臭防止法		－該当せず
危険物船舶運送及び貯蔵規則		－該当せず
廃棄物処理と清掃に関する法律		－産業廃棄物（汚泥）
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R法）		－該当せず

16. その他

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本接着剤工業会）

室内空気質汚染対策のための自主管理規定 J A I A - 0 1 3 0 5 6 F☆☆☆☆

4 V O C放散速度基準：

日本接着剤工業会自主管理規定 J A I A - 4 0 6 8 6 6 4 V O C基準適合

文献： J I S Z 7 2 5 3 - 2 0 1 2

J I S Z 7 2 5 2 - 2 0 1 4

化学物質の危険、有害便覧（中央労働災害防止協会編）

産業中毒便覧（医歯薬出版）

G H S分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構－N I T E）

危険物船舶運送及び貯蔵規則

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の手配を対象としたものであって、特別な手配をする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので、取扱いには充分注意して下さい。